

補足資料) 基本構想原案ver1.2

補足) 【B】基本構想原案ver1.2

スローガン

「美しい」のその先へ。WA!がまち、ふらの

「美しい」

- 富良野には美しさがある。
- **今も過去のものも肯定している表現。**
- 目や耳、心などにうっとりするイメージ。
- 「魅力＝美しく輝く部分」を再発見していく。

- 富良野における「美しさ」・・・が持つ意味。
外面：自然／景観、四季、ゴミ／リサイクル、色・形・匂い・音などの調和・・・
内面：心／感じ方、誇れる／あこがれる、文化／積み上げてきたこと、助け合い、ゆるさ、なんもなんも／いいじゃないか、成長する／輝く、挑戦／前向き←応援、やさしい、受けいられる／多様性、共に進む・・・

参考)

- 「美しい」・・・辞書より
やさしい／きれい／好き／楽しい／愛おしい／美味しい
- 漢字の成り立ち
「羊」が「大きい」→立派

その先へ。

- 見えない将来・決まってない未来
答えが一つでない未来。正解が分からない未来。
「正解がない未来」に答えを示すこと<「アクション・コト」「創造・創る」方が大切

- 「その」とは？
「その」＝「美しい」
美しいを超えていく（創造性）
- 「先」とは？
「先」＝「未来」： **時間的／物理的**
「先」・・・**続くイメージ**
- 「へ。」とは？
「へ。」で止めることで、**余白が生まれる。**
その余白を埋めるのはひとりひとりの力。
行動が生まれることを期待。
生まれることが必要／願い。
呼び込みのエネルギーを表現。

- 美しいのその先へ。
今あるものを磨くことで見えてくるものがある
ないものはない、なくはない、既にあるんだ、全部ゼロから創る必要はない。 否定しない。

- リズム
「美しいの先へ。」<「美しいのその先へ。」

WA!がまち

- **いろいろな意味**
輪・・・つながる、つながり
わっ・・・気づき、驚き
環・・・循環
和・・・先人の残したものの、なごみ、やわらかさ
我・・・わがごと、我が町
他にも、笑／話／若／沸／分／羽／わくわく

- 「WA!」
いろいろな意味があることを想像される。
アルファベットの方が**強調される**。エネルギー。
「つながる」を生み出していく
枠を超える・・・地域や世界など外の人に目を引かせる。（日本語でないことでノーマル感を避け、新しい印象）。今までとは違う何かを感じる。

- 参考)
①美しいのその先へ。WAがまちふらの
②美しいのその先へ。WA!がまちふらの
③美しいのその先へ。「わ」がまちふらの
④美しいのその先へ。ワがまちふらの

補足) フィードバック内容 (好きな／大切なフレーズ)

表現方法や使用する言葉等はブラッシュアップ中

メッセージ

富良野には、「美しい」がいっぱいある。

美しい「自然」、美しい「こころ」、美しい「くらし」・・・。

100年後にも残したい
富良野にしかない「美しさ」。

もっとみがける。もっともっと創造できる。
まだ見ぬ「美しさ」。

ひとりが輝く。
つながることでさらに輝く。
輪になることで輝きつづける。

輪がひろがっていくことで、
予想もできない『わっ!』が起こるかも。

そんなふらののに住みつづけたい。そんなフラノとつながってみたい。そんなFuranoを感じたい。

「美しい」のその先をみんなで見にいこう。

スローガン

「美しい」のその先へ。WA!がまち、ふらの

※赤字部分: 有識者会議・策定委員会にて好きなフレーズ／大切だと思うフレーズとして
フィードバックがあった箇所

補足) メッセージとコンセプトの関係性

「美しい」のその先へ。WA!がまち、ふらの

富良野には、「美しい」がいっぱいある。

美しい **自然**、美しい **こころ**、美しい **暮らし** ……

100年後にも残したい
富良野にしかない「美しさ」。

もっと **みがける**。もっともっと **創造できる**。
また見ぬ「美しさ」。

ひとりが **輝く**。
つながることでさらに **輝く**。
輪になることで **輝きつづける**

輪がひろがっていくことで、
予想もできない「**わっ!**」が起こるかも。

そんなふらのに **住み**つづけたい。そんなフランド **つながって**みたい。そんなFuranoを **感じ**たい。

「美しい」のその先を **みんな**で **見**にいこう。

メッセージでも表現

WA!

デジタルファースト

共創ファースト

【ひとのWA!】

輝く。つながり合う。

【しごとのWA!】

創る。まわす。

【まちのWA!】

想う。かき合う。

【自然のWA!】

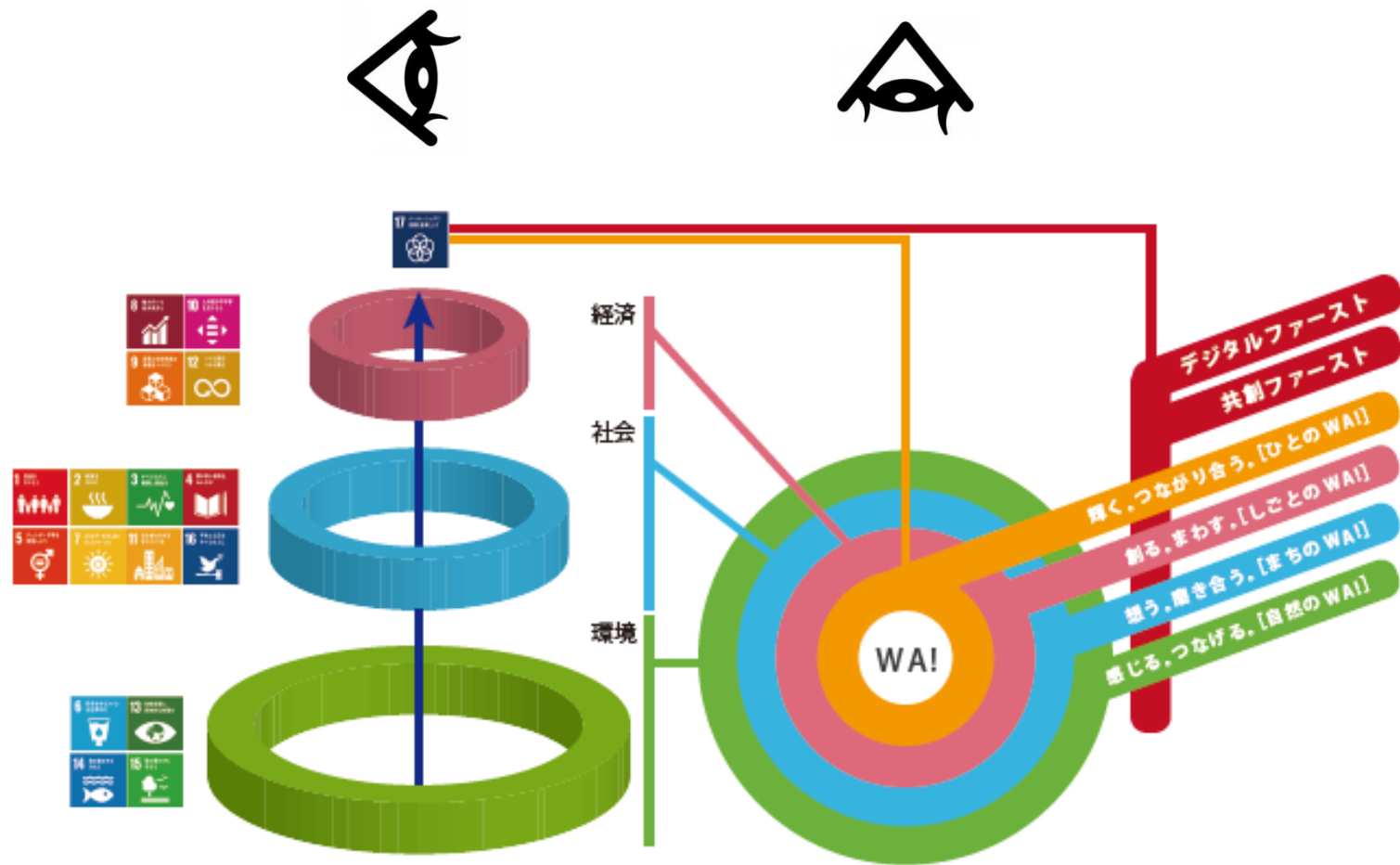
感じる。こたげる。

1人・一つに焦点

複数の要素が必要なこと

補足) SDGsへの発展性・接着

※SDGs (エスディージーズ : Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。



補足)【B】基本構想原案ver1.2

まちづくりのコンセプト

「優先的に考えていく2つのアプローチ」

デジタル・ファースト

持続可能なまちづくりに向けて、「データ」や「テクノロジー」の利活用を推進する。

- ★社会課題が深刻化する中、「持続可能なまちづくり」の手段としてのデジタル利活用であることが前提。
- ★効率化・省力化に加え、データ活用を前提とした意思決定や広報戦略の見直しを行う。
- ★アナログ的なことの大切さも見極めながら、目的に応じてデジタルを活用する。
- ★「データ」
 - ・仮説を立てる
 - ・活用できるデータを集める。
 - ・データを活用した自治体経営を行う。
- ★「テクノロジー」
 - ・科学技術の総称
 - ・ICT、AI、クラウド、ビッグデータ、ロボティクス、IoT等
 - 目的に合ったテクノロジーを利活用、推進を行う。

共創ファースト

複雑な課題に対し、あらゆる枠を越えて「共創」することで、新たな一步目を創り出す。

- ★正解が一つでない。やってみないとわからないことが多い時代。これまでとは違った新たな価値創造が求められる。
 - ★「協働」をベースに「共創」であること。
「協創」ではなく「共創」。
共：一緒に。仲間になる。みな同じ。
協：力を合わせる。調子が合う。やわらぐ。
 - ◎「共創」⇒結果として生まれることがベース
△「協創」⇒目的があって一緒に創ることがベース
 - 「協働」⇒共通の社会的な目的を実現するために、多様な組織が連携し、共に協力して働くこと。
 - ◎「共創」⇒多様な視点で対話を重ね、実践的な取り組みを行い、試行錯誤することで、新たなまちの魅力や地域の価値を共に創り上げていくこと。
- ※庁内の共創／庁内外の共創／市民の共創／他

アプローチ可能な「組織・体制」「人材育成」「外部人材登用」など

補足) 【B】基本構想原案ver1.2

輝く。つながり合う。【ひとのWA!】

ひとりひとり、違っていい。
あらゆるひとが、
輝きを増すように
支援・応援し合う。

枠を越えて
つながり合うことで
新しい輝きが生まれる。



- 「輝く。」
 - ✓ 「輝く」
 - ・ きらきら／光を放つ／注目／まぶしい
 - ・ イキイキとしている／楽しそう／笑顔／いきがい
 - ・ 育つ、育まれる
 - ✓ 何かに一生懸命打ち込んでいる姿は美しい
 - ✓ 認め合う／承認されることで輝く
 - ✓ 個性や多様性あること
 - ✓ 自立できていること
 - ✓ 成長していること・成熟していること
 - ✓ 輝きを知る⇒出番をつくる

- 「つながり合う。」
 - 結ばれて一続きになる／継続する／関係がある／絆共感がある
 - 人のつながり
 - ✓ 家族・身内／同級生／町内会／文化・スポーツ団体／サークル…
 - ✓ 同郷／移住者／商店街／地域・集落／同年代…
 - ✓ 職場／立場／同志（まちづくり）／趣味…
 - 枠を越えて
 - ✓ 立場や年代、壁を取り払って。
 - ✓ 自治体の枠、道外、海外…

補足) 【B】基本構想原案ver1.2

感じる。つなげる。【自然のWA!】

恵まれた自然から
受ける恩恵を感じる。
小さな環境の変化を
見逃さない。

豊かな自然環境を
未来へつなげる。
新しい価値へと
つなげる。



- 「感じる。」…感じることから始まる
 - ✓ どこで感じるか？
 - ・五感で。…視覚／聴覚／味覚／触覚／嗅覚
 - ・心で。…想像する。本質をつかむ。
 - ✓ 生まれてくる感情
 - ・残したい気持ち／伝えたい気持ち
 - ・癒される／リセットできる感覚
 - ・「あたりまえじゃない」「恩恵を受けている」ことへの感謝の感情

- 「つなげる。」…時間軸（未来へ）／物理的に
 - ✓ つなげるものは
 - ・ふらのにしかない風景、景観
 - ✓ 自然があることで生まれる「新しい価値」
ひと・しごと・まちにつながっていく。
 - ✓ エネルギーの循環
 - ✓ 農業と自然の共生
 - ✓ 災害と自然
 - ・ 共存のまちづくり

補足) 【B】基本構想原案ver1.2

創る。まわす。【しごとのWA!】

新たな付加価値を
創造する。
新しいしごとを創り出す。

地域を越えて
「ひと・カネ・価値」の
循環を創り出す。



- 創る・・・興す, New, 産む, 挑む, 育てる, 動く, 育む
 - ✓ 「新しいしごとを創り出す」
 - 新規起業者の創業場所として
 - 完全なる新しい仕事の創出の場として
 - 一度出ていった若者が戻る場所として
 - 挑戦できる機会があり、変化を恐れない気持ち。
 - ✓ 「新たな付加価値を創造する」
 - 今あるものを伸ばす、見直す、プラスアルファ
 - 「農業」×「観光」など産業同士の掛け合わせ
 - ✓ 「創る」のその先は？ ⇒ 稼ぐ ⇨ 付加価値？
 - 所得が上がることで将来への安心につながる。
 - ✓ 「付加価値」 ⇒ 安心・安全、加工、ブランド、魅力、特別感、コラボ、流通...

- まわす・・・循環する
 - ✓ 「循環する経済」
 - つなぐこと、つなぎ合わせること
 - 悪循環→好循環を生み出し持続的であること
 - ✓ 経営視点を持つ
ヒト・モノ・カネの価値を再認識
 - ✓ 「地域を越えて」
 - ボーダーレスに。
 - ✓ 「循環する経済」
 - つなぐこと、つなぎ合わせること
 - 悪循環→好循環を生み出し持続的であること

補足) 【B】基本構想原案ver1.2

想う。みがき合う。【まちのWA!】

現在、過去、未来。
それぞれの地域。
富良野が持つ魅力を
大切に想う。

大切にしてきたものを
みがき合い、
新たなスタイルを
創造する。



□ 「想う。」

- ✓ 「過去～今～これから」
 - ・過去と今の「美しさ」を再確認し、未来へ。
- ✓ 「それぞれの地域」
 - ・想いはそれぞれ
 - 違いを大切にしていく。郷土愛
- ✓ 「富良野の持つ魅力」
 - ・一人ひとり感じる魅力は別々
 - ・型にはめない「美しいふらの」
 - ・魅力⇒自然、人、文化、生活スタイル・・・

□ 「みがき合う。」

- ✓ 「大切にしてきたものをみがき合い」
 - ・これまで積み上げられてきたものを再認識する。
 - ・より良い形にしていく。
 - ・自分本位ではNG
- ✓ 「新たなスタイルの創造」
 - ・短期で捉えると、日常的なスタイル
 - ・長期で捉えると、人生のスタイル
 - 成長し、帰ってくる（帰ってきたくなる）
 - ・今までのやり方のままでは持続・維持は難しい
 - ・個人、地域が持続的に暮らせる形
 - ・行政だけでできる限界⇒共創・デジタル
 - ・新たな豊かさの定義

補足) 基本構想策定の前提・大切な視点 と キーデータ

フレーム：全体像ver1.0

【A】策定の前提・視点

1. 未来は創るもの・
新スタイルへの移行

2. 「ヒト」が
中心であること

3. 「つながり」の
アップデート

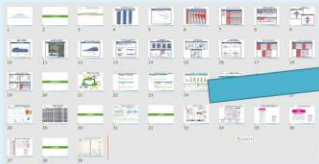
4. 富良野らしい
ユニークさ

a)「データ」・「声」

バックキャスト：未来を描き、
ギャップを埋めるアプローチ

創り出した
い未来

↑両方大切↓



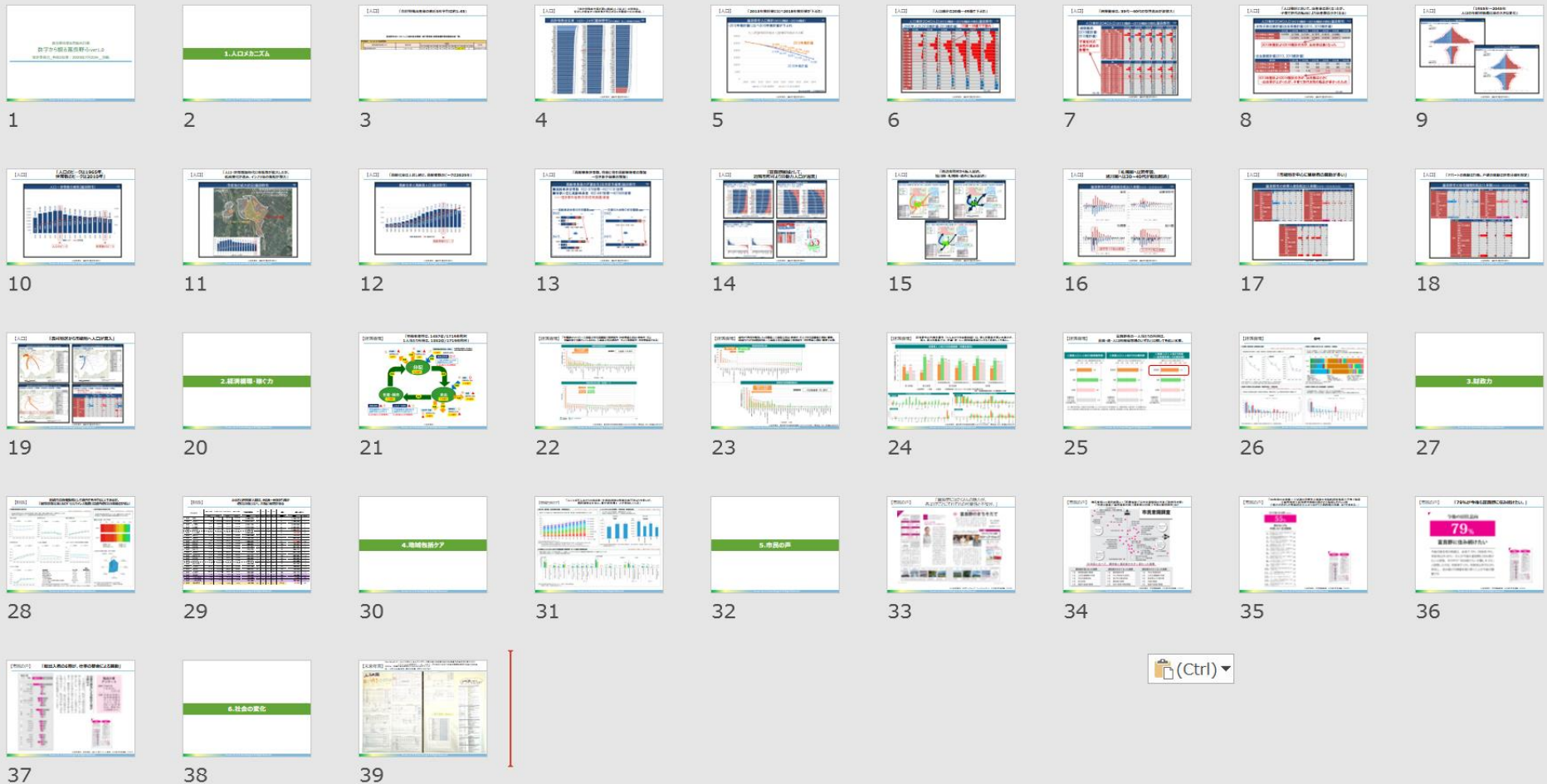
フォーキャスト：対応・対策アプローチ

人口ビジョン

【B】基本構想

【C】
「重点施策」
= 総合戦略
&
「基本施策」
= 基本計画

a) 富良野を観るためのキーデータ ver1.0



※詳細は別紙参照

a) 富良野を観るためのキーデータ_{ver1.0}

キーデータから読み取れること

【1.人口メカニズム】

- 合計特殊出生率の直近5年平均は約1.45
- 合計特殊出生率が高い地域(1.7以上)の特徴は、安定した収益かつ後継者が見込める1次産業中心の地域。
- 富良野市人口推計は、2013年推計値に比べ2018年推計値が下ぶれ。
- 特に、人口減少は20歳～49歳で下ぶれ
- 純移動率は、30代～40代の女性流出が影響大
- 人口推計において、出生率は高くなったが、子育て世代の転出により出生数は小さくなる
- 1955年→2045年：人口の年齢別構成比率の大きな変化
- 富良野市人口のピークは1965年、世帯数のピークは2010年
- 高齢化率は上昇し続け、高齢者数のピークは2025年
- 高齢単身世帯数、持家に住む高齢単身者の増加
→空き家予備軍の増加
- 人口・世帯増加時代に市街地が拡大したが、今後は低密度化が進み、インフラ等の負担が増大
- 富良野圏域として、近隣市町村より労働力人口が還流
- 周辺市町村から転入超過、旭川圏・札幌圏・道外に転出超過
- 札幌圏へは若年層、旭川圏へは30～40代が転出超過
- 市街地を中心に単身者の異動が多い
- アパートの異動は均衡、戸建の異動は世帯分離を想定
- 農村地区から市街地へ人口が流入

【2.経済循環・稼ぐ力】

- 労働生産性は、1457位/1719市町村
1人当たり所得は、1352位/1719市町村
- 生産額のウェイト：①農業②住宅賃貸業③保健衛生・社会事業④宿泊・飲食サービス
全国比較で得意：①農業②宿泊飲食サービス③保健衛生・社会事業等
- 域外から所得を獲得している産業：①農業②宿泊・飲食サービス③住宅賃貸業④運輸・郵便。
地域内での付加価値創出：①農業②住宅賃貸業③保健衛生・社会事業④運輸・郵便⑤公務
- 富良野市の労働生産性(1人あたり付加価値額)は、第1次産業が高い水準だが、第2、第3次産業では、全国・道・人口同規模地域といずれと比較しても低い。
- 富良野市の一人当たりの所得は、全国・道・人口同規模地域のいずれと比較しても低い水準。

【3.財政】

- 財政力は各種指標として道内でも平均以上であるが、「経常収支比率」及び「ラスパイルズ指数」は道内他自治体順位が低い
- 新庁舎建築後、将来負担比率は増加するが、減少予定。
- ふるさと納税受入額は、H28→H30で減少。他自治体と比べ、大幅に余地がある

a) 富良野を観るためのキーデータ_{ver1.0}

キーデータから読み取れること

【4.地域包括ケア】

- 人口10万人あたりの病床数・介護施設数は他自治体平均よりも多いが、同医師数は少ない。
要介護支援1・2が増加している

【5.市民の声】

- 富良野にはたくさんの魅力がある。
各エリアごとにそれぞれの可能性と不安がある。
- 満足度低い×期待度高い：「医療体制」「公共交通機関の充実」「除排雪対策」「市道の整備」「雇用確保対策」「高齢者の対策」「市民の意見反映」など
- 30年後の未来像：①交通の利便性②農業の持続的経営環境③子育て環境④雇用機会⑤富良野市独自の豊かさ⑥環境にやさしい街⑦魅力を活かした事業創造⑧人のつながり⑨高齢者の活躍、などを求める。
- 79%が今後も富良野に住み続けたい。
- 転出入者の6割が、仕事の都合による異動

【6.社会の変化】

- Society5.0：IoT/ロボット/AI/ビッグデータ等の新たな技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れてイノベーションを創出し、一人一人のニーズに合わせる形で社会的課題を解決する新たな社会
- SDGs：持続可能な開発のための2030アジェンダ
- 他：人生100年時代、働き方改革、ポストコロナなど

1. 未来は創るもの／構造変化に対応する新スタイルへの移行

- ① 人口減少をチャンスととらえる
- ② 「柔軟性」×「スピード」
- ③ 「チャレンジ」を応援する
- ④ 「真剣さ」×「遊び心」による創造性



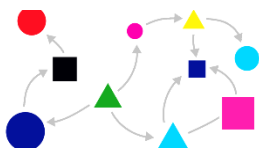
2. 「ヒト」が中心であること

- ① 主役は誰か？
- ② 未来づくり人材が育つ環境とは？



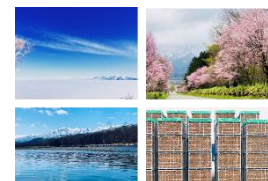
3. 「つながり」のアップデート

- ① 真の協働とは？
- ② 目の前の事象だけでなく、様々な要素のつながりを俯瞰し、好循環を生み出す
- ③ 未来を創るために、越境し、ボーダレスにつながる



4. 富良野らしいユニークさがあること

- ① 美しい風景・自然を100年後の未来に
- ② 先人たちの知恵・歩みをアップグレード
- ③ 地球の住人として富良野がリードできること



1. 未来は創るもの / 構造変化に対応する新スタイルへの移行

①人口減少をチャンスととらえる

少子高齢化により、国内全体および富良野においても人口減少が進む。担い手不足、一人当たりの行政サービス負担等の増加、ハードの老朽化などが予想され、従来型の課題解決での限界が訪れている。

「人口が少ないこと＝悪」ととらえず、創造的な動きやテクノロジーの活用により、成行きで後退してしまわないような転換が必要となる。

未来は、誰かが与えてくれるものから脱却し、自ら目指し創る意識のもと、新スタイルを確立していくことが重要。

課題対応から、「創り出す未来」へ。

③「チャレンジ」を応援する

富良野にはチャレンジを応援する土壌がすでにある。これからの時代には、ひとつの答えを探るよりも、「コト」が起こる実際の動きが重要。ひとりひとりのチャレンジを自然と応援できる寛容な環境を大切にする。

②「柔軟性」×「スピード」

先が読めずに、不確実で正解がない時代。やってみないと、何が確からしいかわからない時代。外部環境の変化もめまぐるしく、過去の成功体験や手法でうまくいかなくなってきた。まずやってみる機運を高め、安全な失敗を尊重する。やってみて、都度修正し、未来を創り出す。



④「真剣さ」×「遊び心」による創造性

真剣さの中に、遊び心や余白があることで創造性は生まれる。どうやって、時間や心の余白をつくるか、遊び心を取り込めるか。未来づくりを楽しもう。

2. 「ヒト」が中心であること

3. つながりのアップデート

4. 富良野らしいユニークさがあること

1. 未来は創るもの／構造変化に対応する新スタイルへの移行

2. ヒトが中心であること

① 主役は誰か？

「より良い未来を」、と願うひとりひとりの気持ちに寄り添っていき。
行政都合になっていないかを問いながら、富良野に住むひとりひとり及び、富良野に関わるひとりひとりが人生の「主人公」となることを応援する。
どれだけテクノロジーやデジタルに進化する時代においても「ヒト」を中心におくことを大切に。

② 「未来づくり人材」が育つ環境とは？

変化の時代、構造が変わる時代において、自ら気づき、考え、行動を起こし、動きを修正し続けられるヒトが求められる。
そのような人材がひとりでも多く育つ環境そのものを皆で育む。



3. つながりのアップデート

4. 富良野らしいユニークさがあること

1. 未来は創るもの / 構造変化に対応する新スタイルへの移行

2. ヒトが中心であること

3. つながりのアップデート

① 真の協働とは？

「協働」が求められる社会背景を理解する。
これまでも、行政と市民の関係を模索しながら歩んできた。
「何のための協働か？」「あるべき協働の形とは何か？」を
探求し続け、「協働」のアップデートをはかる。

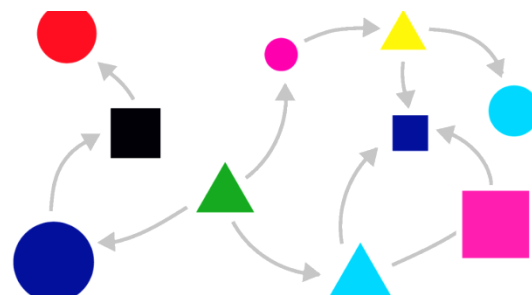
③ 未来を創るために、越境し、ボーダレス につながる

協働、好循環を生み出すためには、個人・組織・立場・
住む場所・地域などの枠を越境し、つながりを創出してい
く必要がある。
富良野に住む人、住んだことがある人、訪れたことがある
人、来てみたいと思う人、興味を持っている人、まだ知ら
ない人たちとのつながりに、未来づくりへの可能性を見出
す。

② 目の前の事象だけでなく、様々な要素の つながりを俯瞰し、好循環を生み出す

複雑な課題は、様々な要素と要素が繋がりあって、表面
上見えにくい状況と重なり合って起こっている。一つの側
面からの対処療法的なアプローチでは、本質的に解決に
至らないことも多い。

要素同士のつながりを大局的に明らかにし、ヒト・モノ・カ
ネ・情報など、「好循環」を生み出すループのデザインを行
なっていくことが求められる。



4. 富良野らしいユニークさがあること

1. 未来は創るもの／構造変化に対応する新スタイルへの移行

2. ヒトが中心であること

3. つながりのアップデート

4. 富良野らしいユニークさがあること

① 美しい風景・自然を100年後の未来に

複数の山系に囲まれた360度のパノラマ、豊かな水系、農地が織りなす美しい景色、月ごとに表情を変える季節の奥行き。世界からヒトが集まる魅力、住む人が誇りに思える魅力が富良野にはある。

住む人も訪れる人も、その豊かな恩恵を受けている。

この美しい、あたりまえの環境を、

「100年後の未来／子供たちに今以上に美しくして残していく」姿勢を忘れない。

③ 地球の住人として富良野がリードできること

自然との共生を前提としたさまざまな取り組みや環境がすでに富良野にはある。その環境に磨きをかけ続けながらも、富良野の枠を超えて、社会・世界に発信し、リードできる可能性をカタチにしていく。

② 先人たちの知恵・歩みをアップグレード

先人たちから引き継ぐ「自然との共生」の知恵を最大限に活かし、「持続可能」な地域づくりをアップグレードしていく。

